

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

合同会社福祉経営情報サービス

②事業者情報

名称：さくらさくみらい蔵	種別：保育所
代表者氏名：大島みゆき	定員(利用人数)： 60 (57) 名
所在地：〒335-0004 埼玉県蕨市中央1-20-15	TEL 048-452-8721

③評価実施期間

平成30年12月20日（契約日）～平成31年3月29日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

○子ども一人ひとりに寄り添い、「子どもが主体」というさくらさくみらいの保育を実践している

例えば、5歳児クラスにあるお店屋さんのコーナーは、レジや屋台、果物、野菜なども子どもたちの遊びが展開されて作られていったものであり、その過程では実際にお店屋さんに行き、値段を調べてみたり、ダンボールをもらう等も行なっている。子どもが遊びたいことややりたいこと、子どもの今、子どもの興味、子どもの飽きなどを保育士がよく察知し、よく見てその思いを大切にすることで、子どもの主体性や自発性が存分に発揮できる環境がつけられている。園内の各所、各クラスでは、子どもがのびのびと遊ぶ中でさまざまなことを学んだり、経験できるような工夫が随所に見られ、子どもの気持ちを大事にしたあたたかい保育が実践されている。

○子どもの日常の遊びの姿を専門的な視点で保護者に伝えることに取り組んでいる

「育ちの目」という取り組みがあり、子どもの日常の何気ない遊びの姿や内容を、専門的な視点を通して保護者へ伝えることで、遊びの中で子どもが成長する姿をみてもらっている。発表会のような行事はないけれど、子どもの成長を保護者が感じることでできる取組であり、また、子どもの姿についての認識を深め、共通の認識を持つ事ができる取組となっている。保育士も取り組むことで専門的な視点や遊びの捉え方、子どもの姿を見る目が養われ、学ぶ機会を持つ事ができている。

○上手な声かけや楽しいアイデアを取り入れて、基本的な生活習慣が身につくよう援助している

トイレの扉に面白いクイズや生活に関するクイズなどを掲示して排泄の大切さを伝えたり、電気を消す、スリッパを揃えること等は、子どもが意識したくなるような上手な声かけをして身につけてもらっている。独自性のあるアイデアもとりいれつつ、子どもたちの興味から生まれる自発的な行動と日々の繰り返しを大切にして、基本的な生活習慣が身につくように職員が意識して取り組んでいる。

○「さくらさくライブラリー」は子どもと保護者が日常的に本に親しめる場所である

木のベンチや本棚が設置されている絵本コーナーの「さくらさくライブラリー」には、0歳児から5歳児までの年齢にあった絵本が、目安がわかりやすい異なる色のシールを貼って掲示されている。毎月新刊が入るのでさまざまな本が揃っており、貸し出しも行なっている。また、今月のおすすめ絵本や読み聞かせの本の紹介がされており、子どもたちと保護者が絵本に触れる楽しみを日々味わえるようなコーナーとなっている。

保育中にも絵本や読み聞かせの時間を多く設けており、また、絵本の読み聞かせに保護者も参加してもらえるように呼びかけている等、「さくらさくライブラリー」をきっかけに本に親しむ機会がさらに広がるよう取り組んでいる。

◇特にコメントを要する点

○地域に向け、園の機能を還元してゆく事については、今後も検討を重ねて実現させることを期待したい

保育園の機能を地域に還元してゆく取組については、食や園内スペースの開放等、具体的実施項目をピックアップして検討が行われているが、実際の取り組みまでには至っていない。今後も地域ニーズを踏まえ、園として出来ることの検討を継続し、実施に向け取り組むことを期待したい。

○中長期的なビジョンや計画を踏まえた単年度事業計画のを策定に取り組んで頂きたい

単年度の事業計画は本社と連携をして事業所において策定されている。計画内容は園運営全般にわたっており、実施状況の把握や評価が組織的に行われているが、中長期的な計画に基づく単年度計画の策定という点では向上の余地もあり、今後の整備を期待するとともに、職員へ周知し内容について十分な理解を得るための取組も併せて実施することを勧めたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

評価の良かった点、改善点が明確に文章になることで、気づきや学びがありました。

これからも養護と教育を一体化させながら子どもたちが主体となり、こころが揺さぶられる楽しい遊びや体験を増やしていく中で、当社の保育目標に少しでも近づけるよう保育に邁進します。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり